

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム里の家 (すずらん)	評価実施年月日	平成20年12月1日
評価実施構成員氏名	中野 次代 三浦 幸子 氏江 久江 赤坂 ハル 小松 泰蔵 箱崎 恵子 伊藤 賀徳		
記録者氏名	米谷 博子	記録年月日	平成20年12月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>地域の中で生活している事を実感出来る様、町内会・学校の行事に積極的に参加し、交流を図っている。地元「よさこいチーム」のメンバーにもなっている。</p>	○	小学校・町内会の行事参加は続けて行きたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>毎朝申し継ぎ時に全員で声を出して言っている。対応が理念に添ったものであるか、職員同士で話し合う機会を多く持っている。</p>	○	継続して行く。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>お便りの郵送や町内会・老人会・学校等への配布、広報に回っている。地域の集まりや行事に沢山参加し、理解を深めて頂いている。</p>	○	町内の行事に御家族様にも参加頂いている。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>ご近所とは入居者様も含めて、挨拶や声掛けをして頂いて、親しくさせて頂いています。漬物や畑の作物・山菜等を頂いたり、差し上げたりしています。</p>	○	御近所の方が立ち寄り易い雰囲気の家作りに取り組んでいます。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内会や学校等、地域の行事にはいつも参加しています。習い事の発表会等にもご招待頂いたり、楽しい集まりがあると必ず声を掛けて下さいます。</p>	○	ラジオ体操は毎年参加をしていますが、今後は更に多数の参加を考えています。町内会のごみ拾いにも参加を予定しています。積極的に参加するよう努め、交流を更に深めていく。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>地域の様々な集まりや催しに参加し認知症について話しをしている。また、地域の方が集まれる機会としてホームで夏祭り等企画実施しており、それらの集まりの中から事業所として取組める事の聞き取りにも努めている。</p>	○	現状では事業所内の質向上と環境整備を推進する事が当面の目標としているが、これらについての更なる向上が地域貢献に直接繋がると考え今後も意欲的に取り組んでいく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>1ヶ月に1項目を職員全員で研修し、レポートを提出している。自己評価は全員で見直しを行なっている。外部評価の結果は全員が読み、話し合いを行なっている。</p>	○	<p>自己評価及び外部評価内容について充分周知理解しており、毎月会議内でも評価項目を議題とした話し合いが成され1項目毎に職員意見(報告書)が明記され提出されている。改善項目を明確にする事で、目的に自然に向かえる体勢に努めている。</p>
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に1度の開催をしており、各関係者様方との話し合いも円滑で実りあるものとなってきている。グループホーム全般の役割や細かな取組みに至るまで理解が深まりつつある。</p>	○	<p>運営推進委員会の内容については議事録としてだけでなく管理者からも説明が成されており、参考意見や今後の取組み課題としても活用している。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>会社全体として行なっている。</p>	○	<p>今後更により良い関係が継続し常に協力し合える状態に努めていく。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>地域権利擁護事業や成年後見制度の勉強会に参加し、必要時説明できるようにしている。</p>	○	<p>今以上に全職員の理解を深める為、都度の会議や研修参加等で知識を得られるよう努めていく。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待防止関連法を学んで来た職員から、職員全員に印刷物と講習の内容等の説明がありました。職員同士チェックし、注意し合える関係を作っている。</p>	○	<p>今迄に虐待の事実はなく、ホーム内での安心した生活の支援を行えているが、今後更に諸対応に注意し虐待防止関連法についても学び虐待防止に努めていく。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居される前の面談を始め、話し合う機会と時間を十分に用意している。入退居の専従職員が常時対応をしている。</p>	○	<p>利用される事での利点は勿論であるが、リスクについても十分説明し納得された上での入居を推進していく。グループホームの役割や機能について更に深く説明する事で理解を深めて行きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	小さな訴えや不満等にも耳を傾ける姿勢をとっており、明らかに苦情と思われる事は速やかに所定書式にて管理者及び本部に提出し、迅速丁寧な解決に取り組んでいる。	○	意見・不満・苦情は小さな事も苦情として会社へ上げている。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	お便り、金銭出納は1ヶ月に1度、各家庭に郵送している。健康や生活の変化等は、職員が電話でその都度報告をしている。	○	お礼状等、個別に書いている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情の受付は書面・電話で24時間受け付けています。外部への相談方法もポスターで貼っています。ケアプラン見直し時等も含め、来所された時にコミュニケーションをとる事に心掛け、意見を聞き即対応をとる事にしています。	○	会社へ苦情届けを提出する事になっている。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月3回のユニット会議・月1回の合同会議で直接会社で意見を述べる機会があります。	○	入居者様の生活上必要な物品等の設備に関する職員意見が殆どであるが、随時改善対応行っており、より生活し易い空間作りにも努めている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	特に入居時には、管理者及び計画作成担当者が勤務に当たるよう調整を行っており、それ以外の特変時についても必要な範囲内でシフトの組み換えを行う事もある。しかし、普段日常については全職員が同一の対応が取れるよう指導教育している為、勤務変更はない。	○	現状として入居者様の状態に合わせた職員配置は難しいと考える。しかし、全職員が可能な限り同一の対応を行える様教育する事で、ケアの質の向上を目指している。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	開設以来職員の異動はありませんが、あったとしても一人ずつの移動ならチームとして対応しているので、利用者様には気付かれず移行できると思います。	○	職員同士の話し合いの時間を多くしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修に参加する機会は沢山あり、参加した職員は内容を報告する義務があります。ユニットごとでも具体例を示して勉強会を開いています。会社にも月に一度、レポートを提出する事になっています。</p>	<p>○</p> <p>研修ですぐ取り入れたい事項等は、印刷してスタッフに渡している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>市内の連絡会は会社として行なっていますが、職員は個人的に認知症を抱える家族の会へ出席したり、研修に来られた他事業所の方達との交流を持って必要に応じて行き来出来る様になっている。</p>	<p>○</p> <p>同業者の訪問等の機会を多くしたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員だけで話し合える場所があり、ユニット内でストレスを解消できています。職場が楽しいことが一番の解消法になっています。</p>	<p>○</p> <p>職員同士の話し合いの時間を作っている。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員個々の経験年数や資格取得に応じて賃金に反映する事で向上心に繋げている。また、それ以外の日常業務内での取組みや個々の成長過程等も確認し、能力を伸ばせるよう個別指導教育も行っている。</p>	<p>○</p> <p>職員個々の評価を判断する為、日々定期的に本部が現場状況の確認を行っており、職員の努力や勤務姿勢について把握出来るよう努めている。また、向上心に繋がるよう多種研修会等への参加も推進している。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>管理者や計画作成担当者が面談を行ない、移行がスムーズに行える様話し合っている。</p>	<p>○</p> <p>家族様と離れ独居及び入院されていた方の希望等の間取りには困難を極める事もあるが、入居してから密に関わりを持つ事で情報収集し、それにより得た情報を可能な限り早期に実現し満足度に繋げる努力をしている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>管理者や計画作成担当者が面談を行ない、移行がスムーズに行える様話し合っている。</p>	<p>○</p> <p>初期に築いた信頼関係をより深められるよう、今後も密な連絡体制を継続し、本人様の生活風景や職員対応の疑問点等についても伺っていく。また、不安や要望等をプラン内容に反映する事でも信頼関係を深められるよう努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	管理者や計画作成担当者が面談を行ない、移行がスムーズに行える様話し合っている。	○	相談時にはまず、本人様及びご家族様にグループホームが自立支援の場である事の理解を深める事に努めており、それらの理解を元に優先的な支援について希望を聞取っている。今後も対応継続し、必要支援の見極めを行っていく。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	管理者や計画作成担当者が面談を行ない、移行がスムーズに行える様話し合っている。	○	違和感なく今までの生活から移行する取組みをご家族に説明し、協力して頂く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	手伝ったり、手伝って頂いたり御礼を言いながら一緒に生活しています。昔の思い出話を沢山聞き、いろいろなヒントを生活の中に活かすようにしています。	○	山菜採り等は続けて行きます。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様と協力してご本人様を支える為に職員が出来る事をさせて頂く、という考え方でご家族と話し合い、意見を聞いています。職員とご家族様との関係が良いのが特徴です。	○	利用者様にもご家族様にもご満足して頂ける生活の過ごし方等を話し合っています。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	以前の生活より、里の家に入られてからの方がご家族様との関係が密になっています。ご家族様が職員に会いたくて来て下さる様な雰囲気作りに努力しています。	○	ご家族様に「すみませんね」と言わせない会話を心掛けている。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの場所へ行ったり、友人と会ったり希望に応じる様にしています。時には記憶のあいまいな部分をご家族様に尋ねる等、連絡をしています。	○	今後も続けて行なう事になります。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	仲よし同士でお話しをされたり、仕事をしたりする空間は確保されています。認知能力やADLの違いが原因で寂しい思いをしない様、何をおっしゃられても何をされても職員が普通の事として接し、その方の長所や頑張っている事等を話し、尊敬していることを示す事で皆様仲間として認め合って暮らしておられます。	○	入居されたときに話しが合いそうな方と同席する機会を作っている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ご本人様の入院先には時々顔を見に行く様にしています。ご家族様とは友人との関係が続いています。	○	開所記念やホームのお祭り等は案内状を出しています。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様やご家族様の言葉や行動・表情等、職員間で常に情報交換し新しいニーズの発見に努めている。人間像を決め付けてしまわない様、毎日白紙に戻し多方面から見る事も心掛けている。	○	スタッフ同士が利用者様の代弁者としてカンファレンスをする機会を作っている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	昔の話を沢山聞く事に時間をとっています。ご家族様が気軽に話せる人間関係を作り、教えて頂いています。	○	入居される以前のサービス利用暦は書面で頂いている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	見守りを大切にし、一日の生活のリズムや身体状況等を把握する事に力を入れています。	○	勤務交代時、経過記録を読んだから仕事に入るように心掛けている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人・ご家族様の意向を介護計画に取り入れる為、ご家族様と一緒にプランを考える機会を持ったり、職員が代弁者となって利用者様の意見として課題を提供したり、今迄通りにも少しずつ変化がある事に注目している。	○	介護計画作成時、ご家族様の参加をもう少し増やしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	○	今後も続けて行く。
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。</p>	○	言葉で申送る事を記録としても沢山書くようにしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	○	事業所側の対応とし様々な要望に応える心構えは出来ているが、まだ十分に要望等を引出せているのか判断が難しい為、今後も継続して関りを深める対応に努めていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	○	地域の文化祭に毎年招待されている。
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	○	同法人で運営する他事業所のケアマネージャーとケース等について相談する機会があり、事業所の機能を十分活かし本人様のより良い生活について検討が行えている。今後も更に同様の取組みを継続していく。
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	○	運営推進委員会の実施をきっかけに各関係と気軽に相談が行える状態である為、現在のところ問題を感じる事はない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人・ご家族様の希望する医療機関へ受診をしている。月に二度主治医の往診、必要に応じて週一度の場合もある。提携医療機関があり、24時間受け入れ箇所もある。	○	2週に1回の往診の他に定期受診等でも対応して頂けている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	提携医療機関の中に脳神経・精神科等も含まれているが、往診があり24時間対応の主治医が神経内科医である。	○	定期受診及び特変時に相談行っており、日常対応についてもアドバイス頂けている。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	提携医療機関の看護職員と随時連絡可能となっている。	○	必要時の相談や対応指示を仰げる状態であり、良好な関係が継続している。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	ご家族様同行で医師との面談の機会を持ち、意向を伝えている。	○	入院先の医療機関と情報交換等が円滑に行っており、早期退院に向けた対応のアドバイスや細かな指示等が頂けている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	職員は全員終末期ケアを経験し成功しているので、希望があれば対応する準備は出来ている事はご本人・ご家族様に伝えるが、最終的にはご本人・ご家族様・主治医との話し合いで決める事であるから、その決定に従い全面的に支援する心構えを確認し合っている。	○	ご家族様が職員に遠慮がないような関係作りを心がけ、重度化や終末期に向けた考え方や希望を日頃から話し合う機会を持っている。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご本人・ご家族様の気持ちを第一に考え、我々出来る事はさせて頂く事を伝えている。事業所としての出来る事・出来ない事を主治医は知っているの、指示に従って対応できる様準備している。	○	チームケアの向上については様々な要素があり、個々の能力、職員間の声掛け、情報収集、情報共有その他にも多々あるが、これらが全て円滑に出来、十分な内容が伴う事でチームとして力を発揮出来るという事を今後も職員指導の一環として行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	退所要約を提出し、転居先の担当者と十分な申し継ぎを行なっている。時々、様子を見に顔を出している(見舞い)	○	今後もダメージを防止する為に、ご家族様や本人様に関わる関係者と連携し、支援して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	プライバシーや人格を尊重した対応に心がけ、職員同士が注意し合い実践している。時々初心に帰り確認できる様、注意事項として持っている。ホーム内では勿論ですが、外に出ても充分気をつける様話し合っています。会社からも具体例等を挙げた指導が成されています。	○	虐待に当たる言葉掛け等の指導を会社から受けている。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	生活の全ての場面で選択や決定を自由に出来る様支援している。他者が意見を押し付ける様な状況では選択して頂かないので、別の機会を作る等工夫をしている。	○	利用者様の気持ちに添うと言う項目を注意事項に挙げている。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員は自分たちの都合ではなく、利用者様の都合で動くことを徹底しています。「待つて」や「あとで」は禁句にしています。個々の希望に添う事が多い程、意見や気分を積極的に伝えて頂ける事だと考え、努力している。	○	在宅生活の延長である事を基本に考えながら、活動的な日常生活の為にゆっくり変化させている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	プライドに配慮しながら整容や着替え等の支援を行なっています。利用者様の希望する理容院の送迎や衣服の買い物等、好みを大切にしています。	○	髪を染めたり、化粧をしたりする事も相談に乗っています。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	メニューや買い物等、協力して頂いたり下ごしらえの段階でお手伝いして頂いています。お手伝いにも個人差があり、一部の利用者様に限られています。食器洗いも手伝って頂いています。	○	立って手伝って頂くのは難しい方ばかりです。準備段階で、もう少し「危ない、危ない」と止めずに協力して頂く様にしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物・おやつは好みを把握して提供しています。テレビを見て美味しそうだと話しておられる時は、即食べて頂ける様努力しています。	○	必要に応じ今後も個別の好みの提供に努めて行く。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	失敗で傷ついたり、回数が多いことを気にしない様出来る事が良い事で、嬉しい事だと利用者様に思っています。ご本人様と相談して布パンツに替えたり、パットだけにする工夫をしています。	○	おむつを出来る限り使用しなくて済むよう、また使っている方もその使用時間、頻度を少しでも減らせる様排泄の自立へ向けた支援を行なっています。また、排泄表を活用する事で自排泄の促しも継続して行っていく。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴時にもご本人様に決定して頂いています。入浴時間の長さも気の済む様にゆくり入り頂いています。夜に入りたい方は希望に添っています。	○	入居者様一人一人の希望に添った、気持ち良い入浴が出来る様今後も支援して行く。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の休息は個人個人の自由に取れる様な環境になっていますが、夜間眠れなくなる程の昼寝等のない様、適度に活動して頂いています。	○	日中外出や体操等、喜んで下さる事を取り入れ夜間の安眠を計っています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	お手伝いや役に立っていると思う事に喜びを感じて下さる方には、感謝しながら願っています。外出・買い物がお好きな方が多いので機会を多くしています。	○	気分転換を考え、ドライブ・買い物・外食等、沢山取り入れている。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人様のご希望があれば、ご家族様と話し合い所持する事をご家族様に承認して頂いています。買い物時にレジで支払って頂く機会を作っている。	○	個人様のお小遣いを使用する機会は殆ど無いが、買い物等での支払いを入居者様に願う事で金銭に触れる機会を多く持つよう心掛けています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外出がお好きな利用者様は毎日でも出掛けられる様支援している。	○	散歩等、自由に出て頂いている。職員同行を嫌う利用者様には気付かない様ついて行きます。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族様と外泊されたりする事は、自由にして頂いています。ご希望があったり昔の話しやテレビを見て行きたい所があれば、時間や距離が許す範囲で実施しています。	○	今後は更に可能な限り、個別対応をしていきたい。また、行事にはご家族様の参加もして頂き共に出かけられる機会を多く作りたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話はどなたも自由に掛けられる様支援しています。手紙は一部の方が実行されています。	○	暑中見舞いや年賀状をご家族様に出したいと考えています。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族様やお友達の訪問は嬉しい事なので、時間や人数等全く制限なく来て頂いています。一緒に食事をして頂いたり、人数が多い時はホールを使用して頂いたりしています。	○	今後も居心地良く過せる雰囲気作りに努め、気軽にコミュニケーション・情報交換等が出来るような関係作りをしていく。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	言葉や薬も含めて身体拘束は全くありません。	○	身体拘束は原則行っていないが、今後より具体的な事例や行為等を学ぶ機会を多く持ち、更なる身体拘束の推進に努めて行く。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	現実には施錠していますが、利用者様がそれと気付かない様玄関に出たら開錠しています。	○	鍵を掛ける事による心理的圧迫を少しでも軽減できるよう、目立たなくする工夫や事前対応に努めている。また、いつでも外出出来ると感じて頂ける対応に努める事でストレスの緩和に繋げている。今後時間帯によっては見守りを強化する事で、鍵を開けておける環境作りに努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	1時間毎の見回りを基本にしていますが、個人に生活パターンやその日の様子等で回数を増やしたり工夫をしています。利用者様の所在・様子は職員同士声を掛け合って把握しています。	○	様子を見て回る事について、利用者様に理解して頂く為話し合いを行っている。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	出来る事・出来ない事を見極めて対応をしています。自信過剰の場合もあるので、職員で話し合いを持って、いいものと悪いものを個人の変化に応じて決めています。	○	使用しているところを観察しています。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人一人の身体状況・癖・行動パターン等、職員間で把握、確認し予防に努めています。見守りを重点に支援しています。	○	具体例を挙げて勉強しています。
70 ○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当や消防訓練は定期的に行なっている。マニュアルも常備して、気が付いた時確認出来る様にしている。	○	継続して行きます。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練は日勤帯・夜勤帯を設定して行なっている。地域の方達との交流を多くし、機会ある毎にお願いしている。	○	継続して行きます。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族様とは常に話し合いながら介助しています。職員に迷惑を掛けない様寝ている様に言っておられるご家族の方には、ご本人様と職員で出来る事を少しずつさせて頂ける様実績を積んでいます。	○	自立支援を行う上でのリスクは特にプライベート空間で発生するケースが殆どであるが、入居者個人様の生活スタイル等を把握し安全な環境整備に努める事で可能な限りリスク幅を軽減していきたい。また、ご家族様にも都度起こり得るリスクの説明を実施しているが更に丁寧な説明を心掛けていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝のバイタルチェックを始め、食欲やトイレの回数等気付きを大切に、チームとして対応できる様見守っている。利用者様が恥ずかしくて隠したりする事のない様、信頼関係を築いている。	○	体調の変化や異変は施設長に報告して指示を仰いでいる。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師による居宅療養管理指導もあり、薬についての情報がいつでも見られる様になっており、従来服薬している部分は把握している。新しく処方された薬について、職員全員でミーティングを行い確認し合っている。	○	服薬管理については業務の一流れとして捉える事なく、複数の職員が確認出来、責任の所在についても明確としている。また、服薬方法も法人で取り決めた統一対応を行っている。今後更に処方箋変更時等に十分注意し対応継続していく。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食事と水分補給の他、毎日体操を行なっています。	○	運動不可能な方は、ドライブ等をしています。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	夕食後は薬(ポリデント)等を等を使用しケアを行なっています。自立されていない方には朝・昼食後・おやつ時は、お茶などで口の中を洗って飲んで頂いたり、一部支援にて口腔ケアを行っています。	○	継続して行きます。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	心配だと感じた場合は栄養飲料やバナナ等、食間に食べていただいたり、水分チェックは毎日行なって対応している。	○	献立に汁物を必ずつけたり、果物を摂って頂いています。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルが用意されている。	○	今後も感染症に関する研修会等の参加により情報収集を行い、その内容を職員間で共有する事で予防に努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板・布巾・冷蔵庫の消毒等は、夜勤者が行いチェック表に記録している。食材を冷凍した日付等、分かる様に書いたり冷蔵庫の清掃を毎日行なっている。	○	今後も衛生管理を徹底し、食中毒の予防に努める。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	一般家庭の様な雰囲気を中心掛けている。段差がない様工夫されている。	○	今年も朝顔を植える予定です。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様の様子を見てカーテンをしたり、明るくしたり、耳の悪い方はテレビの近くに座る等工夫をして、音量にも気を付けています。	○	今後も入居者個人様の能力に合わせた設備等の配置や休憩スペースの配慮を行い、季節感等にも充分工夫を凝らし居心地の良い空間作りに努める。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	椅子を多めに配置している。2階と1階に共有スペースがあるので、良い状態を保っています。	○	日々の状況や個人様の変化に合わせて配置換えを行う等で対応しているが、今後更に柔軟な対応に努めて行く。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族様のご協力を頂いて、家具や写真を用意しています。利用者様のお好きな飾り物や家具も追加しています。	○	個人様の能力による使い易さ及び馴染み等についても配慮しており、ご家族様からも本人様が居心地が良い状況等伺う事で快適で不安のない環境作りに努めている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	利用者様の体感温度を基本に調節しています。居室に不在の時等、窓を開けて換気をしています。	○	温湿度計や個人様の要望に応じ随時対応しているが、特に温度についてはそれぞれ感じ方に相違がある為、着衣等での調節も合わせて行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	身体の変化に応じて手すり等取り付けの事にはしていますが、現入居者様には従来の手すり等で安全に移動されています。	○	入居者様の状態変化に応じ、都度設備や備品の改善に努めている。今後も必要性がある場合を見極め、安全な環境整備に努めて行く。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	新しく入居された方には灯りや目印等で居室・トイレ等、分かりやすくしています。長く入居されている方達は、現在その必要はありません。	○	入居者様の日々の分かる力には波がある為、随時対応を変えている。また、日常生活については入居者様が主役となり不安を感じず活躍出来る様さりげない支援に努める事で、混乱や失敗がおきないよう配慮している。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑に続く庭があり、腰を掛けておやつを食べたり陽に当たったりしています。	○	徐々にではあるが活用出来る空間が広がっており、入居者様の満足度も向上が伺えている。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>○</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>○</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)